

令和3年度第1回福岡市子ども読書活動推進会議議事録

日 時	令和3年7月19日(月) 10:00～12:00
場 所	教育委員会会議室
議 題	・福岡市子ども読書活動推進計画(第3次)の進捗状況について ・子どもの読書とインターネットの適切な利用について
公開・非公開の別	公開
傍聴人の数	なし

1 開会

事務局挨拶

2 委員から活動紹介

各委員・団体の紹介(名簿順)

3 報告

子ども読書活動推進計画の進捗状況について

※資料に基づき、各課長説明

- ①図書サービス課 中村課長
- ②こども発達支援課 吉田課長
- ③小学校教育課 井上課長

4 協議

子どもの読書とインターネットの適切な利用について

小学校教育課 資料2をもとに説明。この資料は、福岡市の中学生の読書時間とネット利用時間について令和2年11月に抽出ではあるが、アンケートを中学生対象に実施したものの結果である。読書をしないという回答した生徒が一番多い。読書しないと回答した生徒の割合は全体の約38%。1時間未満が約35%。2時間未満の生徒が15%。2時間以上が12%。という結果になっている。インターネットの利用時間との関係で見ると、読書をしないという回答した生徒の中でインターネットを2時間以上行くと回答した生徒が957人と最も多い。読書をしなければインターネットの利用時間は長いのではないかという予想が立つところだが、読書が2時間以上の生徒がネットを2時間以上すると回答した生徒が450名。この人数も、高い人数割合になっているので、一概に読書時間が短いからネットの利用時間が長い、読書時間が長いからネット時間が短い、ということとは言えないことがこの調査から明らかになった。

令和2年度、内閣府が毎年調査している青少年のインターネット利用に係る調査では、インターネットを利用すると回答した青少年の利用内容の内訳は、校種の差はあるが、コミュニケーション、動画視聴、ゲーム、勉強等が上位を占めている。勉強等というところで、勉強・学習・知育アプリやサービスが10%ほど前年度より伸びている。コロナ禍において学校に行けなかつ

たり、自宅で勉強する必要が出てきたりしたことで、興味関心を持って視聴する子供たちが増えていると思っている。

今まで常識だと思っていた読書とインターネットの関係が違ったり、コロナ禍の中で読書のあり方やインターネットとの関係が変わってきたりしているような気がする。是非、読書とインターネットというところで、様々なご意見をいただければと考えている。

三宅副委員長

福岡県の子どもとメディア啓発事業（正式名称：保護者と学ぶ児童生徒の規範意識育成事業）で7月9日～17日にかけて県内地域7校回った。主催者の夏休み前に1度きちんと授業をしておいて頂きたいとの要望からこの時期に行った。コロナ禍のため、大規模校は、体育館に集めることができないので、放送室で録画したものを教室に流した。子どもの反応、顔が見えず一方的で、伝わったのか心配だったが、後で子どもが放送室にきてくれたので、何となく伝わったのではないかと思う。

コロナ禍で、スクリーンタイム（液晶の画面にふれる時間）が増えたという結果が出ている。学校が始まってからも、生活の切り替えが上手くできていない。学校でGIGAスクールがはじめたことで、学校でパソコン、タブレットと向き合う時間が一定時間ある。加えて、家に持ち帰ってからも、今まで通り液晶画面をみている。本来子どもに体験してほしいことが体験できないままになっていることを心配している。視力は確実に低下してきている。

SNSの書き込みでどこの学校も苦勞している。ある学校では、おとなしい女の子が何人かに向けて「しねしね」メールを流していた。直接結びつかないかもしれないが、子どもの自死が増えてきている。何かしらの関係があるのではないか。きっちり調べていく必要がある。

ネットをみているから読書ができないというわけではないというデータを頂いたが、ネットに集中する子どもは、インターネットの情報が1番正しいと思いついでいる。中学生には、今年からメディアリテラシーのところをしっかりと教えていくプログラムを作った。ネットの情報が必ずしも1番ではないこと、リテラシーの力をつけるためには、たくさん本を読む、新聞も読む、自分と違う意見の人と話をする、という啓発をしている。ネットにふれる時間が長いことに1番、危機感をもっている。子どもたちがどう自分自身でコントロールできるかを一緒に考えていければと思う。

上村委員

私もとても心配している。これまでは中学生高校生がスマホを手放せなくなっていることを心配していたが、小学校の子どもたちがタブレットを持つようになり、危険性をよくわからないままにネットの世界に入っていることを心配している。保護者の方たちは子どもたちがネットの罠に陥らないよう目を離せずについてほしいと思う。

電子書籍で本を読めば良いのではという風潮があると思う。デジタルで読むときと紙の本で読むときは全然その深さが違う。幼いときに絵本の読み聞かせを楽しむこと、耳からの読書からはじめ、紙媒体の絵本や本で言葉や心を育てることが大切、便利な電子書籍はその後でも良いのではと感じてい

る。感染防止対策を徹底しなければならない現在、タブレットなどを使いリモートで学ぶことは避けては通れないと思うが、その危険性はもちろん、メリットとデメリットを踏まえた上で利用することを私たちは考えていかなければならないと思う。

参考文献『プルーストとイカ 読書は脳をどのように変えるのか?』メアリアン・ウルフ著 小松淳子訳/インターシフト
『デジタルで読む脳×紙の本で読む脳 「深い読み」ができるバイリテラシー脳を育てる』メアリアン・ウルフ著 大田直子訳/インターシフト

白根委員長 副委員長の話の中にあつた、子どもが育つ中で、体験しておくべきことが体験できなくなってきたことについては、私も共感する。人との肌の触れ合い、直の言葉の共有する時間が失われていくことは心配。体験もしっかりして読書もして、生き物としての人間の土台をしっかりつくってから、便利なメディア、デジタルデバイスを使いこなせるように育てていくことが大人の責任であると思う。

西川委員 ネット利用時間については、おそらくゲームやメール等も含まれている。ゲームに関して言えば、非常に学校で困っているのが、オンラインゲームで友達同士がトラブルになっている。

読書の方では、ネットの時間をいかに子ども達がコントロールできるかは学校で指導しなければならないし、親への啓発も必要になる。勝ち負けではないが、読書とネット、どちらが楽しいか聞いた時には、子ども達はネットゲームの方が楽しいという風になってしまっているところがある。読書の楽しさっていうのはやっぱり教えていく必要がある。こんな本が面白いよというのも一つであるし、先生達から子ども達への紹介、学校長から子ども達への紹介といったことも、今後学校としてはしていかなければならない。

小学校も中学校もタブレットが一人一台入つたが、調べ学習をする時に、やはりタブレットが中心になっているという話もあつたが、ネットの情報は全てが正しいのではないところを学校では指導する必要がある。調べ学習をするにはこういう本を使うと良い、便利、もっと詳しく載っているということも、学校の調べ学習をしていく中で伝えていく必要がある。研究委員でも、調べ学習についてはどういう風にしていくべきかについて、もう少し深めていけたらと思う。

白根委員長 図書館の方では調べ学習用の本のセットの貸し出しも行っている。

三宅副委員長 中学入学前に行われる学校説明会で配付していただく、子どもとメディアの啓発チラシを生涯学習課と協力して作成した。ぜひ活用していただきたい。学校の授業で電子図書館ばかりになったら困ると話が出ていたが、文部科学省は、2024年からは電子図書一本化の計画だったが、5月26日文部科学大臣は朝日新聞のインタビューに答え、紙とデジタル化をしばらくは

併用するのが望ましいと述べ、24年度に全面移行する考えはないことを明らかにした。電子ばかりにならないように、紙の温かみにふれながら、学習していくところも必要である。

増田委員

今、給食委時間、前を向いて昼食を食べている。給食時間、私が放送で本を読み聞かせをするようにした。中学生でも、本の読み聞かせにつき合っ
て給食を食べてくれている。毎日ではないが、音で聞いて想像する楽しさを味
わって欲しい。本の楽しさというものは読まないと分からない。デジタルで
読むことと本で読むことの明確な違いは、今いろんなところで言われてい
る。教育活動の中では、違いを意識することが大切であると思う。一人一台
端末になって、情報をすぐ子どもたちがキャッチできる、教師は印刷しない
でリアルタイムで映像や資料を見せられる。使うことによってデジタルを使
う時間が増えた、ネットを使う時間が増えたことは、使う中身が変わって
くるので、利用時間が増えたからといって一概に駄目だとは言えないと思う。
ただ、印刷された文字で読む時に、想像力を働かせたり思考力を深めたり洞
察力を身に付けていくのではないかと思う。デジタルで物を見て行く時に
は、いかに早く情報をキャッチするか、いかに分かりやすく他者に伝えてい
くかを、デジタルを活用して自分の脳を働かせている。しかし、文字を読む
時には、いろんなページにいたりきたりしながら、或いはストップしながら
自分で選択している。これから、デジタルがもっと出てくる世の中になっ
ていくので、私たちはどう済み分けていくのか、思考力を深めていくか、洞
察力を深めていくか、想像力を深めていくかを考えながら、教育活動の中
で、端末と印刷された文字と賢く自分が理解して子どもたちに提示してい
ければと考えている。

高木委員

幼稚園の園児は、園の中では、パソコンやスマホ等は使わないが、家庭の
中でお母さんのスマホ等を通してディズニーの映画を見る等、様々なものに
触れ合っている。朝登園時の様子を見ても、自転車の後部座席にすわって片
手でお母さんのスマホを持って映像を見ながら登園してくる園児の姿もあ
る。言うことを聞かない時に、これをしたら見せてあげるといような、ち
よっとおかしいなと思うような使い方をされておられるところもある。実際
我々が思っている以上に、園児、就学前の子どもたちもデジタルに触れ合っ
ている実態がある。

子ども達は本を読むことが、絵本を見ることがとても大事。大好き。本園
では、一週間に一回絵本の貸し出しをしている。貸し出しと言うと非常に喜
んでいる。やはり、早い時期から絵本を読む習慣化、本を読むこと、たく
さん触れるということ、就学前の段階でたくさん味合わせる事が大事だ
と思う。学校図書館への団体貸出が、小学校はできている。可能ならば、幼
稚園や保育園にも貸し出しをして頂きたい。各園の蔵書数が限られているの
で、希望する就学前の施設にその範囲を広げて頂くことができれば、も
っと早い段階から子ども達は多くの絵本に触れることができ、絵本を
読む習慣が小学校、中学校、大人まで続いていくのではないかと思う。

白根委員長

幼い頃から、本を通して楽しい体験をする積み重ねることが大事だと思う。また、電子書籍と紙の書籍の違いについては、本を読むと、手に持って重さを感じたり、紙の資質を感じたり、五感を使って何かを体験したことは、人間の中できちんと記憶として留まるということがいえるようである。テストをしてみると、紙の本を読んだ方が、正答率が高かったと書いてある本もあったように思う。本の楽しさを通して読書に親しむ子どもたちが育つように工夫していく必要がある。